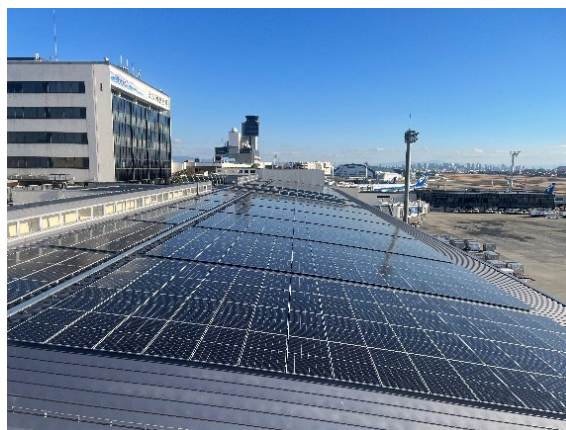


国内空港最大のオンサイト PPA 関西国際空港と大阪国際空港で電力供給を開始 ～計約 23.4MW の太陽光発電事業で空港の脱炭素化に貢献～

オリックス株式会社（本社：東京都港区、社長：高橋 英丈）は、このたび、関西エアポート株式会社（本社：大阪府泉佐野市、社長：山谷 佳之）が運営する関西国際空港および大阪国際空港において、オンサイト型の PPA（電力購入契約）として国内最大級^{※1}となる、計約 23.4MW の太陽光発電システムの設置工事を完了し、2月1日より各空港へ電力供給を開始しますのでお知らせします^{※2}。



関西国際空港 太陽光発電システム (2期島北側土地)



大阪国際空港 太陽光発電システム (ターミナルビル屋根)

本事業は、オリックスの設立する特別目的会社(SPC)が発電事業者となり、関西国際空港に約 22.8MW、大阪国際空港に約 0.6MW、計約 23.4MW の太陽光発電システムを設置し、各空港へ電力を供給するものです。国内空港のなかで最大規模^{※1}の発電量を見込み、運転開始後の運営・維持管理業務(O&M)は、オリックス・リニューアブルエナジー・マネジメント株式会社が担います。発電した電力は各空港内で消費され、初年度の年間発電量は、関西国際空港における年間消費電力の約 16.6%に相当する約 27,800MWh、大阪国際空港における年間消費電力の約 1.3%に相当する約 600MWh を見込み、年間 CO₂ 排出量を約 12,300t 削減^{※3}する見通しです。

オリックスは、企業など電力需要家の敷地や屋根などを借り受けて太陽光発電システムを設置し、発電した電力を長期にわたって電力需要家に供給するコーポレート PPA を推進しています。今後も再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取り組みを推進し、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※1 当社調べ

※2 [2023年11月15日付ニュースリリース：関西エアポートと国内最大級のオンサイト型 PPA を締結](#)

※3 関西エアポートグループの年間 CO₂ 排出量の約 15%に相当（2025年度の発電量の見込みと 2023年度の CO₂ 排出量をもとに関西エアポート試算）。

以上

■設備概要

対象施設	関西国際空港	大阪国際空港
所在地	大阪府泉佐野市泉州空港北 1	大阪府豊中市蛍池西町 3-555
設置場所	2 期島北側土地 国際貨物上屋屋根	ターミナルビル屋根
太陽光パネル設備容量	22,862kW (8 カ所合計)	557kW
太陽光パネル枚数	39,740 枚	960 枚
年間想定売電量 (初年度)	27,754MWh (一般家庭約 8,900 世帯分相当※4)	628MWh (一般家庭約 200 世帯分相当※4)
年間想定 CO ₂ 削減量	約 12,000t	約 270t
運営・維持管理業務 (O&M)	オリックス・リニューアブルエナジー・マネジメント株式会社	

※4 1 世帯当たり約 3,120kWh/年で算出 (出典: 東京電力「平均モデルの電気料金」)